

事業所名		さくら学童 放課後等デイサービス				支援プログラム				作成日		2025 年	3 月	20 日	
法人（事業所）理念		「自開症」を理念とする。「自開症」とは、「障害児・者はかけがえない個人」であると社会が認め、障害児・者と社会がお互いに心を開き合い、通い合う事ができるよう、当事業所が開発した、地域で実践するための考え方であり方法である。													
支援方針		当事業所の職員と触れ合うことにより、新鮮な心と生きていく力が獲得できることを支援の方針とする。													
営業時間		10	時	30	分	～	19	時	30	分	送迎実施の有無		あり		
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	健康状態のチェックについて：一日の最初に会ったときや活動中に、顔色や元気さ、発熱など、職員が気づくことが大切。本人からの意思表示が無いことから、常に気を配る。また、職員が先に気付いたことで、本人の「言いたかったけれど、表現できなかった」という気持ちを、どのように配慮し解決していくか、心配りをしていく。 生活：食事、睡眠、排せつなど、大切なリズムであると思うが、ほどほどにして、押し付けないことにも配慮する。経験から、発語とおむつの関係は、正比例と思われる。													
	運動・感覚	運動：同じ動作を何べんも繰り返すうちに、動きやすい動作が身についてくる。無理に「ああやれ、こうやれ」と指示をしない。遊びの楽しさを無くさない。遊びと運動は、友達と楽しく一緒に過ごすことであり、競争したら、ジャンケンを含め、勝った喜び、負けた口惜しさ、そして、点数の多い、少ない等の、心の生まれと動きを支援する。何年もかけます。 感覚：過敏と鈍麻について、人はそれぞれ、全員異なっている。発達障害のリハビリを放課後デイの事業の中に取り入れること自体、難しく、困難と考えている。													
	認知・行動	認知：例えば、○△□の意味、1 0 3－9＝……を、どうやって説明し、理解してもらうか。人は、いつの間にか、回答を習得してしまっているが、この「いつの間にか」を支援員側が理解しないことには、障害児・者を理解したことにならない。全てを認めて、それでいいという感覚を、支援員は持ちたい。 行動：危険回避であるが、放課後デイの理念に、危険回避の項目は見当たらない。危険回避・危険認知が必要な障害程度であれば、行動援護など、他の制度を利用すべきである。													
	言語 コミュニケーション	言語：必ず言語以外の所で表出しているから、そこに気が付くこと。それからゆっくりと、言語につなげていく。その技術こそ、各事業所の技量と考えている。 コミュニケーション：当事業所は、障害児・者からの要求や発信は、すべて真正面から受け止めている。決して、気持ちを他に反らしたり、無視したりしていない。こうすることにより、当事業所を利用している障害児・者と支援員との間には、愛と期待と尊敬が生まれています。「自開症」に繋がっていきます。													
	人間関係 社会性	人間関係：「ダメと言わない」「ほめて育てる」ことを10年以上続けてやってきました。そしてわかってきたことが「自開症」です。言い方を変えることでほめるのではない。その実践は、当事業所独自のものであろうし、当事業所を利用していただくことで、ご理解は可能と思う。 社会性：「かけがえない個人」づくりは政治や自治体の影響が含まれる。障害児・者、そのご家族を含め、社会全体の不断の努力が不可欠である。													
家族支援		ご家族の意向を最大限、組み入れたい。しかし、ある件で市役所をお願いした事があるが、市役所は全く聞き入れなかった。障害児・者本人を支援することがご家族の支援に直結するという事が理解されず、「人として」の疑問が残った。								移行支援		小・中・高と進学する時、進学の意味の理解は、出来ると思う。意味の理解も、伝える人とのコミュニケーションの積み重ねである。			
地域支援・地域連携		ご近所様は、それとなく気を使っていてくれるのが分かる。家賃の軽減をしていただいた。								職員の質の向上		「毎日が受験生」という気持ちでやっている。勉強会、ケース会議を必要毎に、公開で開いている。			
主な行事等		誕生日のお祝いを、絵や手紙や写真で冊子を作り、手渡ししている。													